

レベル別によるブログの使用例
 EXAMPLES OF BLOG PROJECTS AT DIFFERENT LEVELS

深井美由紀・佐藤慎司 (コロンビア大学)
 Miyuki Fukai and Shinji Sato (Columbia University)

要旨：本発表ではアメリカの大学の日本語コース3レベル（1, 2, 4年生）で行われたブログ活動を紹介します。テクノロジーは空間的・（一部）時間的制約を受けないコミュニケーションを可能にすることで、学習者が教室や学校という枠組みを越えて他者と交流する機会を増やし、外国語教育に多大な貢献をしたと言える。特に、近年その手軽さから人気を博しているウェブログ（ブログ）は、目標言語での自己表現と、読者とのコメントのやりとりを通じた相互交流が可能である媒体として注目されている。本発表では、このブログの特長を活かし、初級から上級までの日本語学習者を対象にブログを取り入れた実践例を報告する。
 キーワード：ブログ、レベル別実践例、社会文化的アプローチ、解釈・批判・検証

はじめに

コンピュータが登場して約20年たった今、外国語教育でも様々な形でコンピュータが利用されている。特にそのコミュニケーション手段としての機能を利用して、教室外でも目標言語を使う機会が持てるようになった（Fukai, 2004; Van Handle & Crol, 1998）。その例として、電子メールや掲示板、インスタントメッセージなどを使い、教室・学校の外にいる目標言語使用者と交流することがあげられる。近年ではウェブログ（ブログ）やポッドキャストなどの新しい媒体が加わり、目標言語を使ったコミュニケーションの手段も多様化している。

特に、ブログは外国語教育で注目を集めている（Pinkman, 2005）。ブログとは、日常生活の出来事や趣味、政治など、ある一定のテーマに沿って「ポスト」と呼ばれる記事をまとめたウェブサイトの総称である（Richardson, 2006）。記事は最新のものが先頭にくるように時系列に沿って表示される。ブログ人気の理由として、まずコンピュータにあまり詳しくない人でも比較的自由に作成・更新ができるという点があげられる。また、ブログ訪問者とのコメントのやり取りを通して複数の他者と交流できるという利点もある（Nardi, Schiano, Gumbrecht, & Swartz, 2004）。つまり、教師とクラスメートだけを相手に、教師によって決められた「ありそうな状況」で話したり、指定されたトピックで作文を書いたりする教室内活動とは異なり、ブログでは自由に自分を表現し、教師やクラスメート以外の他者と交流することができる（佐藤, 2006; 深井・中澤, 2007; Sato, under review）。

本発表では、このようなブログの特長を利用し、アメリカ東海岸の私立大学で初級から上級までの日本語学習者を対象にブログをコースに取り入れた実践例を報告する。これらの実践は、ヴィゴツキー（Vygotsky, 1962）やレイヴとウエンガー（Lave & Wenger, 1991）に代表される社会文化的アプローチを理論的枠組みとしている。つまり、このプロジェクトでは学習を、個人の中でのみ起こる知識・情報の蓄積ではなく、コミュニティの中の個人がメンバーとの関わりの中で知識・情報を解釈・批判・検証しながらお互いに影響を与えて変化していく過程であると考え、ブログ活動のデザインの基礎とした。

以下では3つの実践例の「レベル」「目的」「使用したブログ」「手順」「評価」についてそれぞれ説明する。

使用例 (1)

- レベル：初級（1 年生前半）
- 目的：学生の日本語を学習する中で思ったことや経験したことを書き、他者と学習プロセスを分かち合う。
- 使用したブログ：Blogger (<http://www.blogger.com>)
Blogger が多言語に対応していること、機能がシンプルで使い方が簡単であるため。
- 手順：各学生は Blogger を使って自分のブログを作り、好きなトピックについて 1～2 週間に 1 回ポストした。最初は日本語で書くことは無理なので英語でポストし、日本語で書きたいと思ったら日本語で書いた。何について書けばいいのかかわからない学生のために、教師はクラスのブログに「Suggested Topics」（「日本語の勉強についての感想」「クラスでやってほしいこと」「町で見た／聞いた日本語」など）を載せた。
- 評価：評価は行わなかった。

使用例 (2)

- レベル：中級（2 年生後半）
- 目的：日本語で伝えたいことを伝える；いいブログとは何かを考え、ブログの自己相互評価を行う。
- 使用したブログ：Blogger
- 手順：各学生は Blogger を使って自分のブログを作り、好きなトピックについて 1～2 週間に 1 回、日本語でポストした。
- 評価：クラス全体で作った評価基準を基に、自己相互評価を行った。まずクラスでいいブログの特徴について話し合い、クラス全員の意見を反映させた評価基準を作った。例えば 2006 年秋の評価基準は「週に 1 回は書いたか」「新しい文法や言葉を使ったか」「おもしろいか」「読みやすい／見やすいか」といった項目を含む 8 項目が基準として採用された。この評価基準はクラスのブログにも載せ、学生がいつでも参照できるようにした。そして学期の終わりに、学生はみんなで作った評価基準を使い、自分とクラスメートのブログを評価した。評価シートには ABC 評価を記入する欄とコメントを書く欄を設けた。講師は学生が記入した評価シートを回収し、成績の一部とした。

使用例 (3)

- レベル：上級（4 年生後半）
- 目的：日本語で自己表現する；ブログへのコメントへの返事や、自分が興味のあるブログを読んだりコメントを書き込んだりすることによって、オンラインコミュニティーを形成したり参加したりする；いいブログとは何かを考え、自己相互評価を行う。
- 使用したブログ：ウェブリブログ (<http://webryblog.biglobe.co.jp>)
ウェブリブログは日本のインターネットサービスプロバイダーが提供する無料サービスで、設定からヘルプまですべて日本語である。デザインや設定が豊富で、利用者の好みに合わせたカスタマイズできる。
- 手順：学生には 1～2 週間に 1 回好きなトピックでブログにポストし、また積極的にもらったコメントに返事を書いたり、他のブログを訪問してコメントを残したりするように指示した。

- 評価：学生全員で作った評価基準を基に学生の手で行われた。使用例（2）で行ったように4年生のコースでもいいブログとはどんなブログかについて話し合い、教師が全員の意見をまとめた。そして意見のリストを学生に提示して全員の同意を得たところで評価基準として採用し、クラスのブログにポストした。でき上がった評価基準は「受信」「発信」「交流」を含む3項目であった。学生は学期の最後にこの評価基準を使って自分とクラスメートのブログを評価した。評価は5段階評価と記述式で行い、学生と教師の評価を合わせて成績の一部に加えられた。

評価について

本発表で紹介したブログ活動では、評価がカリキュラムでのブログの使われ方や、教師の考え方に強く影響されたということをつけ加えておきたい。上で紹介したブログ活動のうち、2, 4年生の実践（使用例（2）と（3））では学生全員が評価基準の設定から実際の評価まで、評価の過程に参加する形をとった。この評価方法は、ブログ活動を行った教師の考え方、つまり学習とは他者との相互交流の中で知識・情報を批判的に検証したり、評価したりしながらお互いに変化していくことだという考え方が反映されている。この学生による自己相互評価は、最後に成績の一部に加えられた。

一方、1年生での実践（使用例（1））では評価は行われず、ブログは成績に加味されなかった。これは、1年生の全クラスでブログ活動を導入しなかったという理由による。つまり、1年生の中でもブログをしたクラスとしなかったクラスがあったため、ブログを任意参加の活動とし、評価・成績の対象にはしなかった。

中級（2年生）と上級（4年生）の実践では、いいブログとはどんなブログかを考えて評価基準を作り、それを基に自己相互評価を行うことで、知識・情報を批判的に考える機会も作ることができたと言える。英語を使用すれば、初級でも同様の評価方法は可能である（佐藤・深井, 2007）。

まとめ

本発表では初級・中級・上級の各レベルにおけるブログを使った実践例を報告した。これらの実践例は、学習者のレベルや目的に合わせてブログ活動をデザインし、取り入れることができることを示している。

実践の背景にあるのは、学習者は知識を受け入れるだけの「器」ではなく、言語使用者として能動的に社会に関わっていく存在であるという理念である。目標言語である日本語の言語知識があろうがなかろうが、一歩教室の外に出れば、教師・クラスメート以外の他者と交流していかなければならない。そのような状況で学習者に要求されるのは、教師から知識・情報を受け取るだけの受身的な姿勢ではなく、他者に向けて自分を表現し、他者と関わっていく能動的な姿勢である。今回の発表で紹介したブログ活動は、クラスメートや教師だけではなく、教室外にいる日本語話者との交流を可能にし、学習者の能動性を培う場を提供することができたと言えるだろう。

参考文献

- 佐藤慎司, 文化概念を超える実践：5Cの再考, 第18回アメリカ中部日本語教師会プロシーディングズ, 303-314, 2006
 佐藤慎司・深井美由紀, 日本語教育への社会文化的アプローチ：初級日本語ポッドキャストプロジェクト, 第19回アメリカ中部日本語教師会大会, 2007
 深井美由紀・中澤一光, 教室を越えたコミュニティーへの参加：日本語教育におけるブログ

を使った試み, ATJ セミナー, 2007

Fukai, M. (2004). *Bringing the Standards for Foreign Language Learning to life through an Internet-based newspaper project*. Unpublished doctoral dissertation, Indiana University.

Lave, J., & Wenger, E. (1991). *Situated learning: Legitimate peripheral participation*. New York: Cambridge University Press.

Nardi, B. A., Schiano, D. J., Gumbrecht, M., and Swartz, L. (2004). Why we blog. *Communications of the ACM*, 47(12), 41-46.

Pinkman, K. (2005). Using blogs in the foreign language classroom: Encouraging learner independence. *The JALT CALL Journal*, 1(1), 12-24.

Richardson, W. (2006). *Blogs, wikis, podcasts, and other powerful Web tools for classrooms*. Thousand Oaks, CA: Corwin Press.

Sato, S. (under review) Japanese in action: Beyond standard language and culture. In N. M. Doerr (Ed.), *"Native speakers" revisited: Multilingualism, standardization, and diversity in language education*. New York: Mouton de Gruyter.

Van Handle, D. C., & Corl, K. A. (1998). Extending the dialogue: Using electronic mail and the internet to promote conversation and writing in intermediate level German language courses. *CALICO Journal*, 15, 129-527.

Vygotsky, L. S. (1962). *Thought and language*. Boston: MIT Press.